くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

「痔」について

日本人の3人に1人は悩んだことがあるという痔は、非常に身近な病気のひとつで、肛門と肛門周辺の病気の総称です。痔の種類を大きく分けると、「痔核（いぼ痔）」、「裂肛（きれ痔）」、「痔瘻（あな痔）」の3種類あります。

1種類目の「痔核」は、男女とも患者の半数以上を占めます。肛門に強い負担がかかることで、肛門を閉じる役割をするクッション部分が腫れ、直腸側のクッションが大きくなった内痔核と、肛門部分のそれが大きくなった外痔核があり、普通、痔核というと内痔核を指します。次に「裂肛」は、20～40歳代の女性に多いのが特徴です。原因は、硬い便の排泄、勢いよく出る下痢で、肛門の皮膚が切れることによります。出血は少量で、排便後もしばらく痛みが続き、慢性化すると潰瘍になり、肛門が狭くなったりします。両者の治療法は、食生活や排泄習慣などのライフスタイルを改善する「生活療法」が中心となります。主な薬は、外用薬では、ヒドロコルチゾン含有の坐薬や軟膏があり、便秘がちな乳幼児にも使用できるものもあります。内服薬には、消炎薬や血液循環改善薬、漢方薬などがありますが、医師の指示通りに服用しましょう。それでも改善しない場合、「手術療法」などの処置がおこなわれます。

3種類目の「痔瘻」は、ストレスやアルコール摂取が原因で起こる男性に多い痔で、まず、細菌感染によって、38～39度の発熱、激しい痛み、腫れを伴った肛門周囲膿瘍ができます。これが自然に破れるか切開して膿が排泄されると、そのまま治ることもありますが、約半数の患者は膿の管「瘻管」が残り、膿が再び溜まります。この状態を痔瘻といいます。この場合は、「手術療法」が主体になります。

最後に、痔の予防は、排便に関しては、便意を感じた時に我慢せずに排便する、排便時間は3分以内にして肛門に負担をかけない、温水洗浄は、清浄を保つにはよいですが、洗い過ぎや、強い水流での刺激をかけ過ぎないよう心がけましょう。次に、食事に関しては、食物繊維をしっかりとり、十分な水分を摂取する、胃腸を活発にするため朝食をしっかりとる、アルコールや刺激物は極力避ける、適度な運動をして、体を冷やさない、同じ姿勢をとり続けないことを心がけましょう。また、肛門の病気は、痔とは異なる疾患の場合もあります。いずれにしても、肛門疾患ガイドラインに沿った診療をしている医師とよく相談してから、納得のいく治療を受けましょう。

（神戸市長田区　ふれあい薬局長田
浅田圭一）